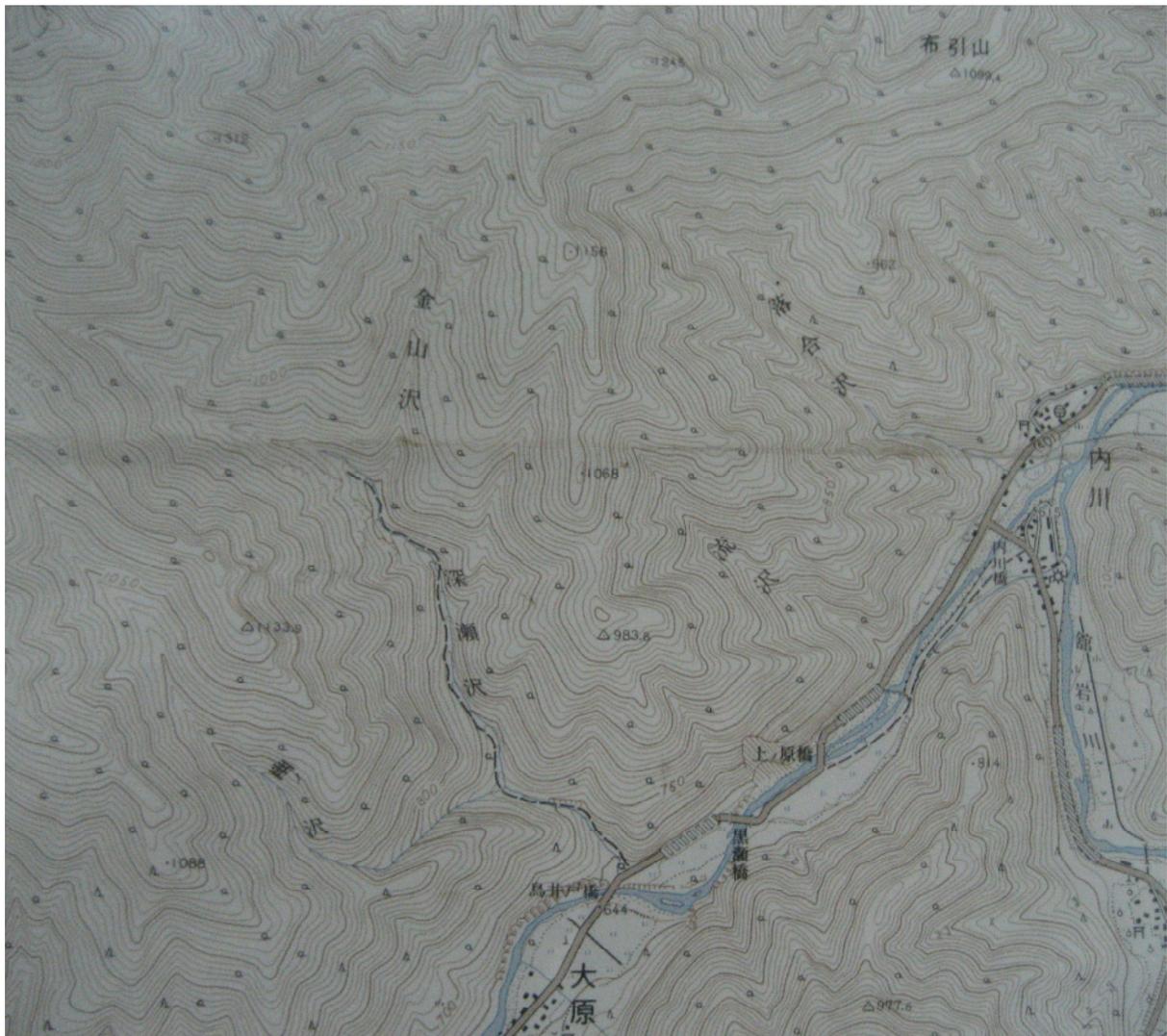


(71) 東邦伊南鉱山跡

参考文献(1)を手引きに、福島県南会津郡伊南村にある東邦伊南鉱山の探査を行った。参考文献(1)によれば、本鉱山の金属鉱物は、黄銅鉱、黄鉄鉱、磁硫鉄鉱、閃亜鉛鉱、方鉛鉱、赤鉄鉱である。

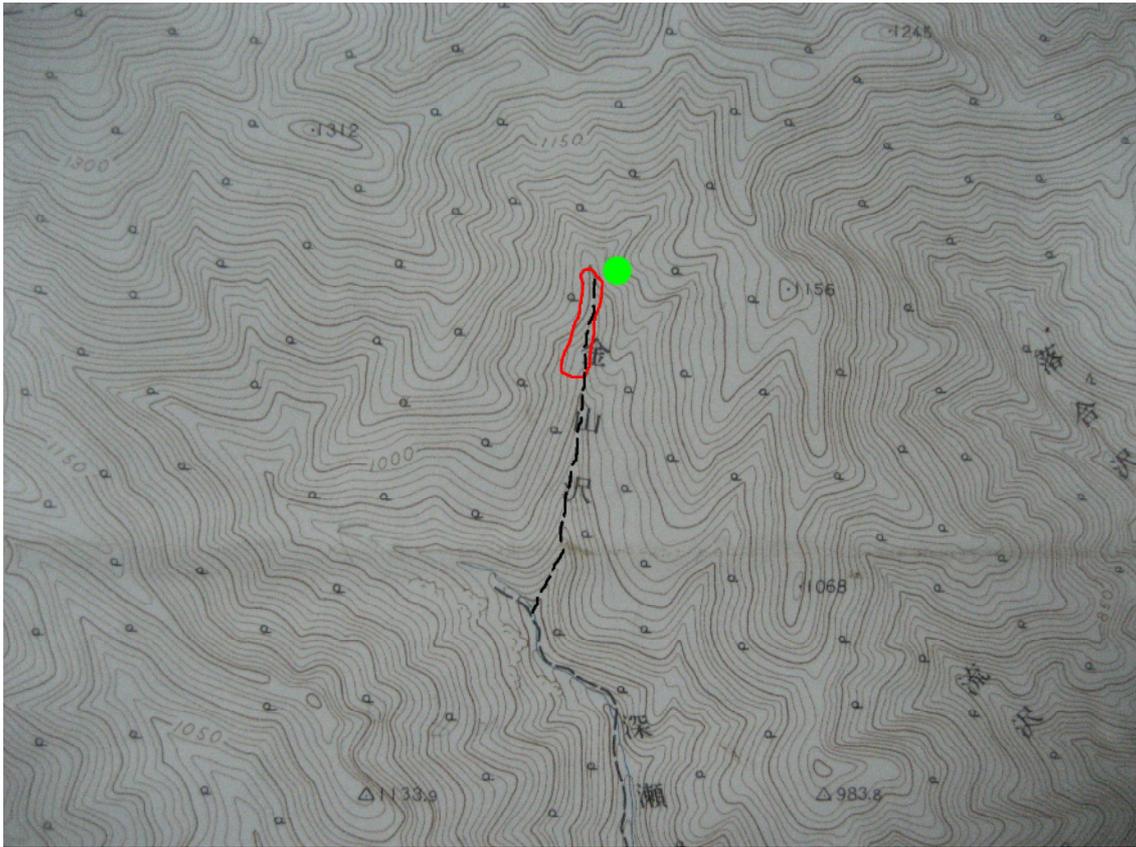
本鉱山への経路は、栃木県からは次の通りである。121号で県境を越え、352号を西進し、401号にであつたら、左折して檜枝岐方面へと進む。左折してから約1.5kmの所に鳥井戸橋がある。この橋の手前の右側に深瀬沢がある。この沢の上流に、伊南鉱山跡がある。沢の入口あたりに車を駐車させて、徒歩で沢を登っていく。地形図に示しているように林道は生きている。これを進む。約1.5km進んだ、標高860mのあたりで沢の本流に、右手から流れ込んでいる支流の沢がある。この沢が金山沢である。名の如く、鉱山がありそうである。金山沢を約800m登り詰めたところに、鉱山施設跡らしい何段にも続いているプラトーがある。石垣も見える。プラトーの先の右側斜面に坑口を1つ見つけた。



地形図1 鳥井戸橋の所から、深瀬沢を遡り、金山沢へと進んでいく。

地図 国土地理院2万5千分の1地形図「内川」
探査日 2010年 11月

参考文献 (1)「日本の鉱床総覧(上巻、下巻)」、日本鉱業協会、1965年、非売品。
産総研(つくば市)の地質調査所図書室で閲覧可能。



地形図2 部分拡大。赤で囲んだところにはプラトーがある。黄緑丸は坑口跡。経路を黒破線で金山沢に書き込んでいる

鉋山跡写真



道路の左前方に鳥井戸橋がある。右側に深瀬沢への林道入り口が見える。



標高約 860 m の所で、沢の本流に右側から支流が流れ落ちている。この沢が金山沢。向かって沢の左側に消えかかっている道が延びている。道は消えたりしているが、沢を登ればよい。危なくなく遡って行けよう。



途中、蛸のように巨石を抱き込んだ巨木を見つけた。珍しい。



鉾山跡らしいプラトーの一部。石垣組が健在であった。



幾段かのプラトーの先の右側に坑口を見つけた。左上から真ん中下にかけて、小さい沢が流れ落ちている。真ん中当たりの黒い箇所が坑口跡。



近づいての撮影。入口は綺麗で、覗いたら内部も綺麗であった。

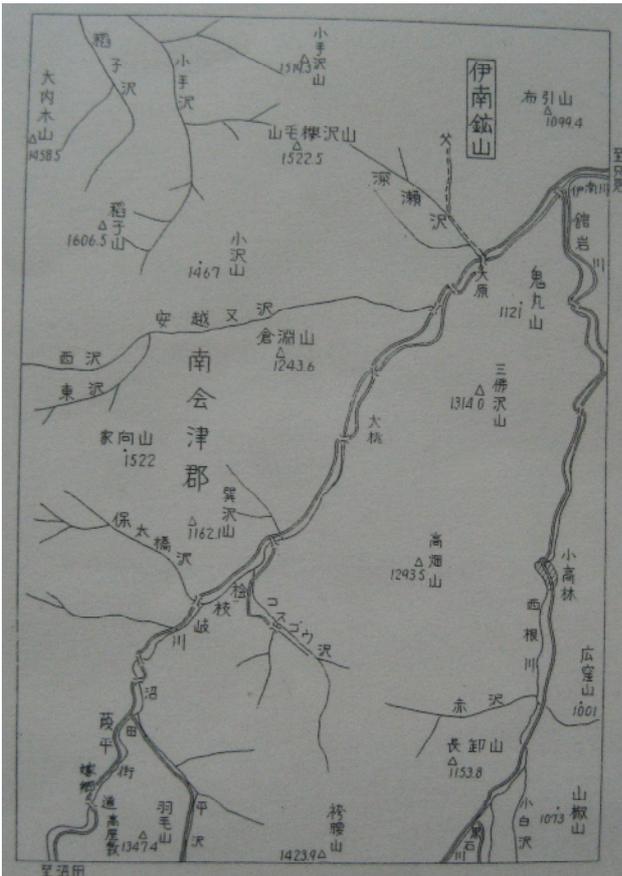
採集鉱物写真

閃亜鉛鉱らしい貧弱な鉱石は幾つか採集した。大した物ではないので未掲載とする。

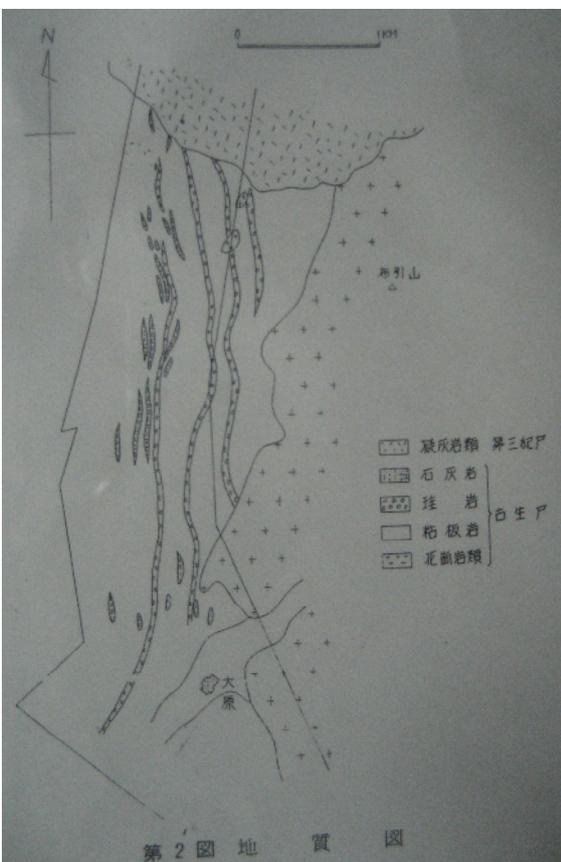
参考文献(1)によれば、鉱床は本山、上の山、下の山、熊の穴、獅子合沢、高盛、大露頭、長露頭、高平、干度入があった。採掘は本山と上の山で行われた。今回の坑口はどれだかはわからないが、本山なのかも知れない。このあたりに沢山の鉱床があったことだけは事実である。機会があれば、何度か探査を繰り返したい

参考資料

参考文献(1)からの一部資料を複写掲載する。位置図と地質図である。



伊南鉦山の大凡の位置がわかる。これを手引きに探査に出かけたわけである。



第2図地質図